

## インターバンクの声（2016年7月26日）

昨夜の外国為替市場は、ロンドン市場が始まった頃に7月の独IFO景気指数の発表があったくらいで、米国からは主要経済指標の発表もなく、典型的な日米双方の政策決定会合を控えた様子見相場となった。今月上旬以降の米経済指標が予想していたよりも好調な内容での発表が続いたこともあり、当初はほとんど可能性が消えていた米連邦準備制度理事会（FRB）の7月の利上げ観測が再び持ち上がり始めていたこともあってドルが堅調地合いとなっていたが、所詮は少数派の見方とあってか早めのドル買いポジションの手仕舞いが見られた。先週、一旦ドル/円が107円台中盤までドル買いが進んでいたの、105円台に下げるとまた円高相場の再開かとの気分にもなってしまうが、原油価格（WTI）が43ドル台まで下落していたことやニューヨーク株式市場も反落していたことを考えれば無難な反応と言っているのだろう。日米金融当局それぞれの利上げと追加緩和への市場の思惑がいまだに揺れ動いていることもあって、値幅が極端に広がることはないにしても小刻みな変化が続きそうだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。